第 11 回 プラチナ大賞「優秀賞 地域パートナーシップ賞」を受けて

このたび、市町村と県による協働電子図書館「デジとしょ信州」が、第 11 回 プラチナ大賞の「優秀賞（地域パートナーシップ賞）」という、大変名誉ある賞をいただきました。この喜びを「デジとしょ信州」の企画から構築・運営に携わっている、長野県内の 全 77 市町村と県の関係の皆さま、そして、すべての長野県民の皆さまと分かち合いたいと思います。

各優秀賞は、評価されたポイントから名付けられるとのことです。「地域パートナーシップ賞」は、「デジとしょ信州」が大切にしているコンセプトが反映されており、大変嬉しいものでした。今後とも、さまざまな取組を通じて、デジとしょ信州が、県民すべての皆さまにとって喜ばれるサービスとなるよう、共に取り組んで行きたいと考えています。

「デジとしょ信州」が生まれたきっかけは、令和元年の台風 19 号による水害や、コロナ禍がありました。コロナ禍では全国では 9 割以上、長野県内でも 7 割以上の図書館が休館せざるを得ない状況に追い込まれました。このままでは、人々の「知ること・学ぶこと」を保証する図書館としての役割が果たせない！何とかしたい！という全県の図書館関係者の思いが、大きな動きにつながりました。

情報格差が広がってしまわないよう、令和 4 年 8 月、すべての自治体が参画する長野県先端技術活用推進協議会の下にワーキンググループを設置し、協働の方法を模索してきました。令和 5 年 3 月にプロポーザル形式で株式会社メディアドゥによる OverDriveJapan 電子図書館サービスの導入が決定、同年 8 月にサービスがスタートしました。

すべての市町村の参画が叶い、公益財団法人長野県市町村振興協会の宝くじ助成金をいただけたことは、大きな後押しとなりました。さまざまな困難をデジタルの力で解決してくれた DX 関係の皆さんにも、本当に自分ごととして協力してもらいました。「早く行きたいならひとりで行け、遠くまで行きたいならみんなで行け」が、合い言葉になりました。

今後はさらに、学校連携、読書バリアフリー、地域を学ぶオリジナルコンテンツ拡張の観点から、事業を展開していく予定です。そして、著者の方、出版や印刷関係の方、書店さんなど、本を巡るさまざまな立場の方々との対話を続け、「読書文化の振興」という大きなビジョンでパートナーシップの輪を広げ、地方創生につなげていきたいと願っています。

「プラチナ社会」の「先端技術力と文化的創造力を駆使し、世界に先駆け直面する諸課題を解決する」という理念に、賛同いたします。私たちは、生身の体を持つ人間として、物理的な空間で人と人とが直接交流する「リアルな図書館」の良さと、デジタルの強みの両方を生かした図書館サービスを展開したいと考えています。

今回いただいた賞を励みとして、これからもより良い社会づくりの一画を担っていきたいと思います。本当に、ありがとうございました。

令和 5 年 11 月 6 日

市町村と県による協働電子図書館運営委員会 委員長　県立長野図書館長　森 いづみ
副委員長　坂城町立図書館　鈴木 康之